

小麦「はるみずき」の栽培暦（平坦地域）

◎普及適応地域：平坦地域の排水良好な圃場。

◎はるみずきの特徴：（数値は、農業研究開発センターにおける平成30～令和6年産の平均値）
 ・出穂期は4月6日、成熟期は6月1日の早生品種。
 ・赤かび病耐性は、ふくはるかと同じ“中”。
 ・耐倒伏性は“強”、穂発芽性は“中”である。

品質・収量の安定は
「排水対策」の徹底から!!

月	旬	生育段階・主な作業	栽培管理のポイント																												
11	上 中 下	圃場の選定・準備 (播種期) 耕起・施肥・播種 雑草防除	<p>圃場の選定・準備 ① 小麦は過湿に弱いので、排水可能な圃場を選ぶ。また、早めに圃場周囲に排水溝を作って水はけをよくしておく。機械で排水溝を掘るだけでなく、圃場外へ水が排水されるよう排水溝をつないでおく。</p> <p>② 圃場条件に応じ、3～5m間隔程度で排水溝を設ける。</p> <p>③ 雑草が多く、耕起作業の障害となる場合は、あらかじめ雑草防除をしておく。</p> <p>酸度矯正 小麦は酸性に弱いので、耕起前に、必要に応じて苦土石灰等を施用する。 pH目標：6～6.5 本県の粘土質土壌のpHを1上げるためには、苦土石灰が約100kg/10a必要</p> <p>元肥 10a当たり成分量 窒素：リン酸：加里＝6kg：6kg：6kg</p> <p>播種 ①種子消毒：播種前に登録薬剤を種子粉衣 ②播種期：11月15～25日頃 ③播種量：10kg/10a（全面全層播） 8kg/10a（条播） 倒伏発生圃場では播種量を1～2割減らすこと</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>施肥 施肥基準</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">成分 (kg/10a)</th> <th rowspan="2">時期</th> </tr> <tr> <th>窒素</th> <th>リン酸</th> <th>加里</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>元肥</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>播種前</td> </tr> <tr> <td>追肥1</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>2月10日頃</td> </tr> <tr> <td>追肥2</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>出穂10日後頃</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>17</td> <td>6</td> <td>10</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※前作や土壌条件を考慮して施肥を行う。 休耕田や野菜作後では元肥を減肥し、追肥も生育状況を見て行う。</p> </div>		成分 (kg/10a)			時期	窒素	リン酸	加里	元肥	6	6	6	播種前	追肥1	3	0	4	2月10日頃	追肥2	8	0	0	出穂10日後頃	合計	17	6	10	
	成分 (kg/10a)				時期																										
	窒素	リン酸	加里																												
元肥	6	6	6	播種前																											
追肥1	3	0	4	2月10日頃																											
追肥2	8	0	0	出穂10日後頃																											
合計	17	6	10																												
12	上 中 下		<p>覆土 ロータリー耕により、浅く攪拌する。 覆土深は3cm程度とし、深くなりすぎないように注意する。</p> <p>播種の作業工程 耕起→施肥・播種・覆土→除草剤散布</p> <p>雑草防除 通常は播種直後に土壌処理剤を散布するのみで防除可能 ※ 耕起・播種前に雑草が多く作業の障害となる場合は、作業前に雑草が枯れるように、十分に時間を確保して非選択性茎葉処理剤を散布する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>土壌処理剤の効果を高めるため、 ていねいな碎土・均平が必要</p> </div>																												
1	上 中 下	[麦踏み] [雑草防除]	<p>[麦踏み] …徒長防止と凍霜害対策として、12月～2月の茎立ち前で、圃場が乾燥している日に2回程度行う。 ただし、土壌水分が高い条件では実施しない。</p> <p>雑草防除 雑草が残った場合、雑草の種類、生育に応じて茎葉処理剤を散布する（カラスノエンドウ・ヤエムグラ・スズメノテッポウ等の生育初期に散布）。</p>																												
2	上 中 下	追肥1	<p>追肥1 5葉期頃（2月10日頃） 10a当たり成分量 窒素：リン酸：加里＝3kg：0kg：4kg</p> <p>雑草防除 カラスノエンドウ種子の発芽は春まで続くため、常発圃場では追加防除する。（2月中旬以降）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>生育期間中は、降雨後も圃場内に 滞水しないよう排水に努める!!</p> </div>																												
3	上 中 下																														
4	上 中 下	(出穂期) 追肥2 病害防除1回目 (防除から7～10日後) 病害防除2回目	<p>追肥2 出穂10日後頃（開花状況を確認して施用する） → 開花期追肥によって、タンパク質含量と千粒重が向上する。穂数が少ない圃場に追肥すると外観品質が低下し、遅れ穂も増加。 10a当たり成分量 窒素：リン酸：加里＝8kg：0kg：0kg ※生育状況（m基数・葉色）により施用量を加減すること!</p> <p>病害防除 開花最盛期（出穂期から約10日後頃）とその7～10日後に薬剤による防除を必ず行う。</p> <p>小麦の最も重要な病害は、赤かび病である。 赤かび病は、開花期から乳熟期にかけて穂に発生する。始めは小穂がおかされ褐色となり、「ふ」の合わせ目からモモ色のカビが生じる。子実の稔実が悪くなり、減収や品質低下の原因となる。 また、かび毒（DON：デオキシニバレノール、NIV：ニバレノール）が産成され、流通上問題となる。 出穂期以降の平均気温が18～20℃以上と高く、湿度が80%以上又は降雨が3日以上続くと、孢子飛散が盛んとなり発生が多くなる。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>																												
5	上 中 下																														
6	上 中 下	成熟期 収穫・乾燥・調製	<p>収穫 成熟期は出穂後約56日頃。 コンバインで収穫する場合、成熟期以降で穀粒水分が30%以下になってから行う。 成熟期後に降雨に遭うと、外観品質だけでなく容積重やフォーリングナンバー等の成分品質も低下するので、刈り遅れに注意する。</p> <p>乾燥 速やかに乾燥を行う。乾燥機で乾燥させる場合、40℃以下で行う。 目標水分12.5%。</p> <p>調製 粒選機（網目2.2mm）により選別し、屑麦や細麦を取り除き、良質麦に仕上げる。</p>																												

(注) [] の作業は必要に応じて実施する。

令和4年9月 作成
令和5年9月 改訂
令和7年1月 改訂
奈良県農業研究開発センター